アースキャラバン　バルカンレポート
２０１９年３月

セルビアのペトロバッチ・ナ・ムラヴィとボスニア
のスレブレニカでのタオ指圧入門ワークショップ

ペトロバッチ・ナ・ムラヴィ

３月１２日、ロブ、みわ、ちとせ、 アリス、マガリが
３日間の午後のワークショップと６月のフェスティバル
のコンタクトと準備のために視察。

学校教師のイバがこの町での中心のコンタクトパーソンです。
６歳の女の子達も参加、彼女達もみんなと一緒にワークを行いました。毎日参加者が入れ替わりになっていたにもかかわらずワークショップでは皆がそれぞれにポジティブな反応を示しました。

ひと月たった現在のところまだフィードバックはありませんがこのワークショップを通じて皆が相手の話を心で聞くという機会を持てたことに心を動かしたと共有しました。

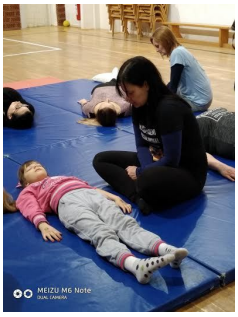
フェスティバルの準備で新しいコンタクトもとれました。この町の皆さんは積極的に私達を受け入れてくださいました。

バルカンでは捨て犬、猫の問題も緊急事態でありイバは動物保護のためにアソシエーションを運営しています。この６月のフェスティバルでも動物保護のための援助もする予定です。

またチェス倶楽部とのコンタクトもとれチャトランガのブースも設ける予定です。

旅行会社、市役所、ムラドスト高校とのコンタクトもとれました。
３日間の滞在を終えて私達は人の心に触れることができ暖かい気持ちになりました。

イバからのメッセージです。
私はあなた方に会えて幸運です。そして私はあなた方が人の心、また世界中の人々をケアし未来を創造して行く活動が大好きです。



*地元のテレビがアースキャラバンとタオ指圧のドキュメントをつくります。

スレブレニカ

ドリナ川をこえて5時間かけてボスニアに着きました。着いたのは夜も遅くなっていました。スレブレニカでコンタクトをつけてくれるイルビンがマヌエラの家で迎えてくれました。
スレブレニカは今は放棄された街。
戦争の前は7000人だった住民は現在は1000人以下。冬になると500から600人になるといいます。そしてまだたくさんの傷跡がのこつています。
イルビンのお父さんとおじさんが殺された時、彼はまだ6才でした。そして家族はイタリアに移住しました。その後彼は10年後にはじめてこの街にもどつてきました。その後26才で”希望の町”をたちあげます。

翌日のワークショップには3人が参加。イルビン、メブリダ(去年に来た時にスーパーマーケットであった女性) 。彼女は女性の権利を保護し、支援する活動をしています。素晴らしい女性。そして彼女は一人の女性の学生を連れてきました。ワークショップの後、イルビンは私達のモーテイベーションを感じるといってくれました。
彼のモーティベーションは、人生のエッセンスを一つにすること。
そのための努力は惜しまない。そして彼は賛同者を探しています。

そしてこの訪問は、彼の希望、彼への対応をより明解にすることができました。

私はこの彼とのコミュニケーションが深い意味で異教徒をつなげることができるように願います。
イルビンはトルコ帝国によって改宗したイスラム教徒であり、もとはボゴミルであり、彼は自分達の文化を復活させたいと考えています。

このフェスティバルが行なわれるための多くの努力は皆にとって素晴らしい喜びの経験でした。
サンガとして行動を分かち合えることは素晴らしいことでした。ここまで来るにあたってのわたし達の痛みがタオ指圧によって癒されました。

写真がそれを語っています。

6月にアースキャラアバンで戻ってくるのを楽しみにしています。他の方がたともバルカンで感動的な経験を共有したいと思います。バルカンでの深い傷跡の会話から生まれた偉大な気を共有したいです。

6月にアースキャラバンに参加して、素晴らしい気を広めましょう。

マガリ　ブロシュ